総務省

【兵庫県立大学】
地域連携事例集

関西官学連携推進ポータル

■ 兵庫県立大学　地域連携事例集　目次

防災・防犯

1　データを分析・活用した防災計画の策定　【兵庫県立大学×神戸市中央区港島地区】・・・ 1

防災・防犯　文化・スポーツ

2　デジタル翻刻集を活用した歴史災害研究　【兵庫県立大学×名古屋市等】・・・ 2

防災・防犯　移住・定住

3　データを分析・活用した防災及び移住・定住施策　【兵庫県立大学×西脇市芳田地区】・・・ 3

防災・防犯　交通

4　VR運転シミュレータを活用した緊急走行時の安全確保施策　【兵庫県立大学×姫路市】・・・ 4

移住・定住

5　常時微動計測システムを活用した地盤及び建物に係る振動特性の分析　【兵庫県立大学×南あわじ市】・・・ 5

兵庫県立大学　神戸市中央区港島地区との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

【どこから】
　神戸市中央区港島地区（人工島ポートアイランド）の地区防災対策委員会から依頼を受けての取組である。
【どんな課題】
　同地区はすべての居住者がマンション居住であり自宅避難を原則とするが、人工島特有の孤立時対策を含めた実践的な防災計画の策定が喫緊の課題であった。
【参加者】
委員会、住民、中央区職員、水上消防署、港島学園の関係者等

研究成果（シーズ）の還元

港島地区防災対策委員会
マンションカルテ
（含　まねっこポイント）

ポートアイランド住宅のまねっこポイント

【実施内容例】
・12棟のマンションすべてに対してアンケートを実施・回収
・防災訓練の実施状況把握
・アンケートを通じて収集したデータを基に、過去の自然災害における被害、今後の懸念、取組目標と計画を整理
【活動成果】
・過去の知見と他者の良いところを取り入れた「まねっこポイント」として指針をまとめる
・しおり作成等の周知徹底、防災訓練のスタンプラリーなどの参加しやすい取り組み推進
・毎年の更新が重要であり、取り組みは足掛け5年に及ぶ

■　この連携に携わった研究者

減災復興政策研究科
澤田　雅浩　准教授

（研究者からのメッセージ）

　大都市など、中高層集合住宅が多く立地するような地域では、地域防災計画上で定める指定避難所の収容能力や、建物の強靭性などを鑑み、自宅での避難を推奨するケースも増えています。一方でそのための具体的な備えはまだ途上です。地区防災計画制度を足がかりに、地域で議論し、対策を講じることは、効果的な減災対策となります。

※　研究者の経歴等は（https://researchmap.jp/swd_nid）をご参照下さい。

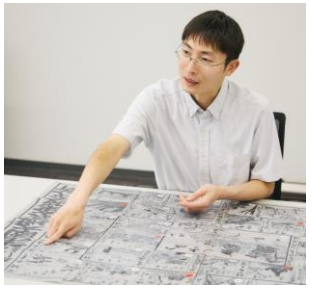
兵庫県立大学　名古屋市等との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

【出典：減災古文書研究会 https://sites.google.com/view/gensai-komonjo/】

【どこから】
　兵庫県立大学と名古屋大学を中核とした複数の研究機関・自治体の有志が集った取組である。
【どんな課題】
　地震や風水害に関する古文書を解読することで、過去の災害による被害の様相と復興の過程を明らかにし、今後の対策に活かすこと。
【参加者】
　大学教職員、名古屋地区自治体職員・住民、兵庫県及び近畿地方の歴史災害研究者

研究成果（シーズ）の還元



【古文書解読】

【かわら版すごろく】

【実施内容例】
・2024年10月の熊本市開催「ぼうさいこくたい2024」へワークショップ「すごろくで遊んで学ぶ！安政の南海トラフ地震」出展
・三重県鳥羽市にて歴史災害の現地巡検を実施
・2024年8月開催の「第5回 関西歴史災害研究懇談会」における活動紹介
・2024年8月開催の「地域安全学 夏の学校」における活動紹介
【活動成果】
・子どもや保護者へ過去の災害について遊びを通して伝える
・災害に関する古文書の翻刻集（デジタル書籍）作成

■　この連携に携わった研究者

減災復興政策研究科
平井　敬　准教授

（研究者からのメッセージ）

　減災古文書研究会には災害研究の専門外の方も多く参加しており、知識と史料解読スキルの獲得だけでなく、一人ひとりの防災意識の底上げにも貢献しています。我々の活動の成果が多くの人の目に留まることで、歴史災害研究のサポートと社会還元につながると考えています。

※　研究者の経歴等は（URL：https://sites.google.com/view/drg-eqlab/ ）をご参照下さい。

兵庫県立大学　西脇市芳田地区との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

【出典：国土交通省 https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001518774.pdf】

【どこから】
　西脇市芳田地区の芳田自治協議会から依頼を受けての取組である。
【どんな課題】
　同地区は兵庫県の制度である「空き家活用特区」の認定を受けており、「空き家」の利活用を進めるに当たって事前広域避難対策を兼ねた取組の効果と可能性を実証的に検討したい。
【参加者】
自治協議会、住民

研究成果（シーズ）の還元

【実施内容例】
・住民アンケートを実施・回収
　アンケート例：地域内課題、高齢者ケア、農地状況、空き家活用
・アンケートを通じて収集したデータを基に、今後の自然災害における被害、懸念、取組を整理
【活動成果】
・人口減少対策として、定住人口増加だけでなく関係人口増加を目指す指針設定　ex.新潟県長岡市山古志村との絆と交流
・南海トラフ巨大地震・津波想定による県内被害想定より、域内連携＋域外連携の必要性を整合

■　この連携に携わった研究者

減災復興政策研究科
澤田　雅浩　准教授

（研究者からのメッセージ）
　都市部においては、巨大災害で発生した被災者の避難生活環境を確保することは極めて困難です。特に避難生活を送るための居住空間の確保は、地域外も含めて検討する必要があります。一方、地方部に目を向ければ空き家対策が喫緊の課題です。これらを重ね合わせ、平時のWell-Beingとも兼ね備えた対策の具体的な検討は、さまざまな地域課題の解決を一気に図るものとなります。

※　研究者の経歴等は（https://researchmap.jp/swd_nid）をご参照下さい。

兵庫県立大学　姫路市との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

【どこから】
　姫路市消防局との緊急車両（消防車・救急車）の緊急走行時の交通事故防止・安全教育に向けた取組である。
【どんな課題】
　緊急車両の緊急走行時の交通事故は、社会的影響が大きく、事故減少に向けて多くの取り組みが行われている。しかし、出動件数の増加や熟練者の減少などの影響もあり、事故件数の大幅な減少にはつながっていない。
【参加者】
　姫路市消防局職員

研究成果（シーズ）の還元

【緊急走行を再現したVR運転シミュレータ】

【消防士評価】

【出典:日本バーチャルリアリティ学会，2024年学術講演論文集】

【実施内容例】
・消防士と意見交換を行いながら、緊急走行を再現したVR運転シミュレータを開発した。
・開発した運転シミュレータを用いて、消防士と一般人の運転行動の違いを確認する評価実験を行った。
【活動成果】
・消防士と一般人の運転行動を比較すると、交差点進入時の車速・視線・頭部の動きなどに違いがあることを確認した。
・消防士に体験してもらった感想として、「画面で見るのと違って臨場感がある」といった好意的なコメントが得られた。

■　この連携に携わった研究者

工学研究科
山添　大丈　准教授

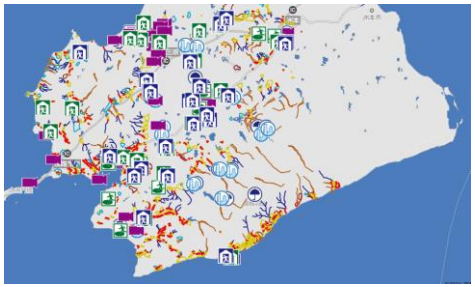
（研究者からのメッセージ）

　この研究では、消防士の皆様のご協力をいただきながら、緊急走行を体験できるVR運転シミュレータを開発しています。意見交換や評価実験を通じ、貴重な知見を多く得ることができました。これらの知見をもとに、よりリアルで臨場感のある緊急走行体験を可能にするため、現在もシステムの改良に取り組んでいます。

※　研究者の経歴等は（URL：https://researchmap.jp/hyamazoe）をご参照下さい。

兵庫県立大学　南あわじ市との連携事例

自治体の課題（ニーズ）

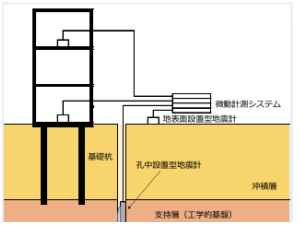


【出典：南あわじ市 https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/safety/hazardmap/】

【どこから】
　南あわじ市との減災復興フィールドワークの取組である。
【どんな課題】
・ハザードマップを読み込むことで災害ハザード・リスクについて理解する。
・常時微動観測の実習を行い、地盤および建物の振動特性を把握する。
【参加者】
　南あわじ市職員
※常時微動観測とは、常時微動を測定することにより、その建物や地盤の揺れやすさの特徴がわかります

研究成果（シーズ）の還元

【南あわじ市庁舎周辺】



【常時微動計測の概念】

【出典:(株)日さく https://www.nissaku.co.jp/wp-content/themes/nissaku/pdf/ng23.pdf】

【実施内容例】
・南あわじ市のハザードマップを読み込むことで災害ハザード・リスクを理解しながら市職員との意見交換を行う。
・南あわじ市の市役所内2か所に設置した常時微動計測システムを用いて、常時微動観測の実習を行う。
【活動成果】
・災害ハザード・リスクについて、今後の対応につなげる。
・計測したデータを基に、地盤および建物の振動特性を把握するとともに、推定する手法を習得した。

■　この連携に携わった研究者

減災復興政策研究科
永野　康行　教授

（研究者からのメッセージ）

　災害、特に地震災害において建物の耐震性はとても重要です。建築構造物の耐震技術は言うまでもありませんが、表層地盤の振動特性を把握することも大切です。理論的な研究の構築にとどまることなく、自治体他との連携により実践的な事業にも取り組んでいます。

※　研究者の経歴等は（URL：https://researchmap.jp/naganoyasuyuki）をご参照下さい。